

井戸端だより

第10号

発行日 1995・6・1

発行 ぐらしの学習会

梅雨入りを間近に控え、今年は去年のような水不足に悩まされないような1年でありますようにと願わずにはられません。

前回井戸端だより以降の活動をご報告します。

3月20日・・・ 3月例会

高校入試の発表等忙しい時期で、出席者が少なかったのが残念でしたが、丸井さんの送別会を行いました。-----丸井さんは無事4月1日高知へ行かれました。

4月17日・・・ 4月例会

3月町議会一般質問で、自民党の議員の泉に付いての質問に対して、町長が、自然を残す方向で考えている旨の答弁をしたそうです。私たちの活動が多少なりとも町長の答弁に影響を与えたかどうかはさだかではありませんが、状況は大きく前進したのではないかと考えられます。

例会に特別参加の白形氏が、泉の理想とする未来図を描いてきてくれました。ぼんやりとしていたものが、この様にはっきりした形で表されると、現実味を帯び、訴える力が増すように思われます。このイラストを一度産業課に見せに行こうと言うことになりました。

4月23日・・・ 三ヶ村（南野田、北野田、牛淵）の水利組合の総会に、会員のTさんの仲介で参加することができました。Tさんを含め4人の会員が、三ヶ村の水利組合の人たちと直接話しをすることができたのはこれが初めてです。いままで話がしたくても、三ヶ村全部の人が集まることなどなかったのですから、今回このような機会にめぐりあえたのは、本当にラッキーでした。

「あんたたちのおかげで迷惑しとるんよ。」とおっしゃった方もいましたが、全体的にはなごやかな中でお互いの思いを話すことができました。

（水利組合の人たちの言い分）

- ・ 自然の大切さはよく分かるが、今のままでは水漏れがひどくて60%の水しか利用できない。
- ・ 掃除が大変なので、次世代の人に楽な形で泉を残して行きたい。
- ・ 草木が生えて、その根で石組が崩れてきて、手を入れない訳には行かない。
- ・ きちっと整備すれば、ゴミを捨てる人も減るだろう。

（私たちの主張）

- ・ 私たちは、決して対立関係に立つものではなく、数少なくなった貴重な自然としての泉をみんなの共有財産ととらえ、共に、望ましい泉の姿を考えて行きたい。
- ・ 水漏れのためにコンクリート張りが必要と言われるが、コンクリートで張ってしまえば、地下にしみる水がなくなり、長い目で見れば結局地下水の減少を招くことになる。
- ・ 三ヶ村のよい水質は、自然の浄化作用が働く今の状態でこそ保てる。
- ・ コンクリート張りをすれば清掃が楽になると言われるが、自然の浄化作用がなくなるのだから結局は藻がついて掃除も大変になりかねない。丈が淵がその

よい例である。

- ・ 文化財としての価値も高いので、子供の教育のためにも現状をとどめておきたい。
- ・ もし仮に手を入れるにしても、自然の生態形をなるべく壊さないようにして欲しい。一度破壊したら、もう元には戻らない。
- ・ ゴミについては、杭を周囲に打つとかすれば多少は防げるだろう。

泉の絵はがきと白形さんの描いた泉のイラストを差し上げてきました。何と言ってもお互い腹をわって話せたことが最大の収穫でした。泉の絵はがきの売上収益を泉の保全のために利用して欲しい旨申し出ましたが、受け取ってもらえませんでした。この利用法については、今後例会で検討することにしました。(T・H)

—— 三ヶ村泉の水利組合の方々にお目にかかって ——

水利組合の方々の泉を管理していく上での苦労話を聞かせてもらい、農家の大変さがよく分かりました。

自然を守ることも大事だし、三面コンクリートが絶対的によい方法ではないと考えておられる方もいて、うれしくなりました。

対話をする場を持つことの大切さを痛感しました。

A.M ——

前々から願っていた水利組合の人たちとの第1回の話し合いとあってかなり緊張していました。

話しの中で、みなさんが話されることは、管理がとにかく大変とのこと。水利の人たちも、自然は残したい。しかし、どちらかと言うと、管理のしやすいコンクリートにして100%下まで水を効率よく送りたい、と強調しておられました。

それで、私たちの側から「それでは管理の方を重信町の共有財産として町に管理してはもらえないだろうか?」と提案してみました。すると、すかさず、「行政に任せることはできない。ずっとずっと昔からやってきたことだから。水利のことは町も手出しはできないのですよ!!」と話されました。

今回は、初めての顔合せだったけれど、お互いの意見を出しあえたことでこれからの展望につなげたいと思いました。(H・M)

水辺のつどい

4月29日・・・水辺のつどい

かねてより計画していたゴミ拾いコンサート。”水辺のつどい”と銘うって開催しました。当日は雨が降ったのですが、決行しました。会員、松山方面からの参加人、宇和川先生、それに何と高知から丸井さんもかけつけてくれて、合計19名の参加がありました。(新聞切抜き参照)ゴミひろいの後、宇和川先生のコンサートを橋の下で行いました。先生の自作の曲、それに今はなき情景を歌い込んだ童謡・・・時の流れるのを忘れるひとときでした。ボランティアで快くこの企画にのって下さった宇和川先生に感謝感謝。「今度は、先生のえぐい歌を存分にききたい。」とはある会員の言葉でした。

泉のつどいに参加して

4月29日小雨の中、口ばかりで”働かない”私と、あまり社交的とは言えないけれどわが家の中では”働く”主人と娘の3人で地図をたよりに竜沢泉に出かけました。

”多分中止”とあくまで働きたくない私でしたが、何と着いてみるともうすでに数人の方がせつせとゴミを拾っておられます。おまけに”ゲスト”であるはずの宇和川先生まで急斜面を降りて大奮闘です。これは行動を開始しない訳には行きません。それでも未練たらしく”スーパーの買物袋1杯分位”というキャッチフレーズが頭のかたすみをチラチラとよぎります。でもそれがいかに甘い考えであるかをすぐに悟りました。

私は、道路でゴミを袋詰めしただけですが、斜面を降りて行った人達が次から次へと持ち上がって来るゴミで黒い大きなビニール袋があつという間にいっぱいになり、はちきれんばかりの黒い袋が道路に列を作ってしまう有様でした。弁当がらや空缶は予想していたものでしたが、梱包された粗大ゴミや束ねた蛍光灯、マットレス、袋詰めされた家庭ゴミを見るに至ってはわざわざ捨てに来たとしか思えません。遊びに来て飲んだり食べたりした後のゴミのポイ捨てももちろん困りものですが、わざわざ捨てに来るといのはこれはどう考えたらよいのでしょうか。多分車で運んだのだと思うのですが、それならどうして所定の日時に所定の場所に捨てないのでしょうか。その方が自宅からは近いでしょうに……。きつとこれは何かの理由で決められた日時まで待てなかった人が捨てに来たのではないかと思えます。そんな時はどうすればよいのでしょうか。役場に連絡すれば何らかの方法を教えてくださいませんか、私もはっきりしたことは知りません。1人1人の意識が大切であることは言うまでもありませんが、もっとゴミの捨て方や、どうしてもその日に捨てられない場合はどうすればよいかをPRし、又なおかつ誰でもがより簡単に実行できるようにするべきだと痛感しました。その費用は馬鹿にならない額になるかもしれませんが、一旦失われた自然を取り戻そうとする時、比べ物にならないほどの巨額を投じても完全には戻ってこないのですから。

私はそんなことを考えながら、相変わらず口だけは活発に文句を言いながらの作業でしたので、我家はやはり3人で1人前でした。

そしてだんだんひどくなる雨の中、ランチタイムは高知からかけつけて下さった丸井さん共々、橋の下、宇和川先生の味のある弾き語りを聴きながらフォークソング全盛だった学生時代のことをなつかしく思い出しました。

スタミナ切れの私は、中途脱落となり、三ヶ村泉へは行けませんでした。がゴールデンウィークの有意義な幕開けとなりました。

(K・O)

水辺のつどいに参加して

そぼ降る雨の中、竜沢泉周辺のゴミ拾いをしながら、「これが同じ人間のすることなのか？」とショックを覚えました。

公園で遊んだ後のゴミ、家の庭の木の剪定くず、雑誌の束、ガスコンロ等々、ありとあらゆるゴミが草むらに隠れるように捨てられています。

「出たゴミは持ち帰る。」皆がそういう気持ちになればいいのにネ！！

昼食後、宇和川先生を囲んで音楽を楽しみ、リフレッシュ出来、有意義な一日でした。

(A・M)



竜沢泉のゴミを拾って、きれいにする参加者

竜沢泉周辺を美しく

重信
牛刈

主婦グループが清掃

95.5.9

温泉郡重信町の主婦らでつくる「重信くらしの学習会」(林哲子代表、十五人)がこのほど、牛刈の竜沢泉周辺を清掃奉仕した。学習会は、昨年から町内にある泉の自然を守る活動に取り組んでいる。清掃もその一環。竜沢泉は重信川河川敷のそばにあり、ヤブで覆われて、ゴミを捨てる人が絶えない。泉を管理する農家や、町役場も頭を悩ませている。

清掃には会員ら十八人が参加した。草むらに隠れるように空き缶や瓶、古雑誌があった。中にはペーパー用のおむつやホットプレートも。作業終了時には、ビニール袋三十個分が集まった。このあと参加者の一人が弾くギターに合わせ、みんなで歌って、疲れをいやした。林代表は「泉のゴミは自分たちの問題にもつながる。同じ清掃をするなら、

できるだけ楽しい時間にした」と話していた。

5月17日・・・5月例会

水利組合の人たちと会った時、5月3日三ヶ村泉の大掃除をすると聞いたが、会員がその直後行って見たものの、掃除をした跡はうかがえなかったとのこと。わずかに水路の辺りのその形跡がみられたとの事。

先日、会員が他の用件で町長と面会した時、5月11日に町長自ら案内して学者グループと三ヶ村泉を視察に行くとの事を聞いた。町長は、保護に対して前向きに対処したい気持ちであることを実際に感じた。

産業課に白形さんのイラストを持って行くことになっていたが、4月末産業課に連絡して、話を聞いてもらいたい旨申し込んだところ、泉に関しては何も決っていないし、今忙しいのでと言うことでアポイントメントをとることができなかった。役場に寄ったらのぞいてみてくれとの事だった。まだ決まっていない今だからこそ、イラストと共に要望を文章化して出しておくことになった。

絵はがきは順調に売れていて、あと残り160部ほどとなった。今後どうするか。さらに増刷するのか、あるいはやめるのか。今後の懸案事項。 以上

次回例会は、6月19日(月) 1:30～

町民会館3階 会議室

三ヶ村泉について、お手紙をいただきました。

前略 午後からは黄砂が激しくなっていていつもはよく見える瀬戸内の景色が曇っています
「都市に泉を」を読ませていただきました。

金子 博氏の正確な報告、若林 高子氏の情緒的な観察記録など内容も文体も無理がなく、しかも平易で実によく出来た活動記録でございました。

小金井市は新興都市ですが革新市長会のリーダーでもあった住民運動の先進地です。都会ですから何につけても専門家の知識が得やすいし、同じレベルの新住民の間では問題認識の共通基盤も大きいでしょう。

重信町は中心部の都市化と周辺部の過疎化が混在して住民運動が育ちにくい形態になっています。(つまり貴女方の運動の方が難しい)

この本で紹介されている多くの事例も、もし周辺の農業が健在であつたら地域の意思を集約出来たかどうかわかりません。

自然の力を信じて作物を作り、その収入で生活している人は出来た作物を消費しているだけの人とは異なる哲学の下で生きているように思います。

今は兼業農家ばかりになっていますから、半分は私達と共通の意識が育ってきているのですが、兼業農家なるが故に農業を省力化したい欲求は昔より強いとも言えます。

三ヶ村泉の保存も、農業の省力化と共存できる条件が求められているのかも知れませんが、行政の保護対策を実現すれば、水路掃除程度は業者に委託することも出来ます。

(もちろん土地改良区が業者から下請けすることも出来ます)

『重信町誌』であれだけのページを割いている文化遺産ですからその気になれば名目は何とでも付けることが可能なのです。

町内の他の文化遺産を点検してみても全体的な保存運動に出来れば住民の関心は高まるし、一改良区の犠牲によって・・・という被害感の克服になるかも知れません。

「村」の意識の底には、よその「村」のことは口を出さないというルールがあります。それはある時は集落の団結力であり、自治意識でもあるのです。

この意識を克服するためにはどの地区にも共通する問題として提起することが有効ではないでしょうか。

村の意識の構造を端的に表現した言葉に「村八分」という言葉があります。

残りの「村二分」は「火事」と「葬式」です。

団結や自治を乱した人も含めて村の意識は何世代も守り続けられてきたのですから手強い相手であるには相違ないのです。

余談ばかりになりましたが、この本に出てくる「流域下水道」の合流式と分流式の話は私たちの間でも少し問題になったことがあります。

「農村集落排水」の名で上林地区に計画されているのはどちらでしょうか。

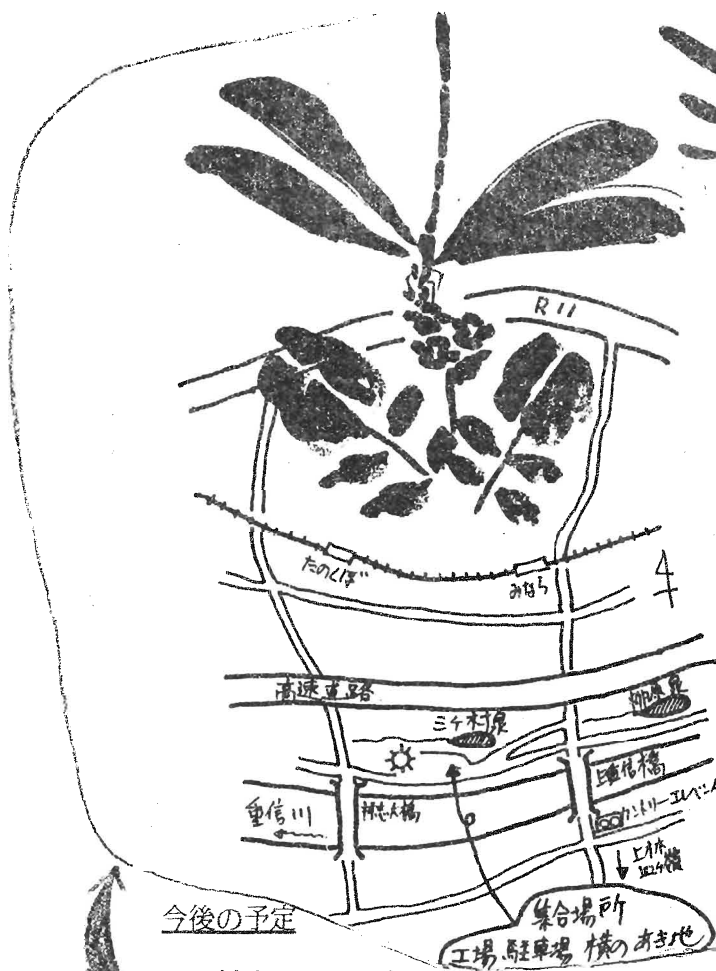
電話が鳴って仕事が出来ました。

今日はこれまで、みなさんによろしく。

早々

この手紙の裏に「また水辺に豊かな自然を」など3冊の本を送っていただきました。読んでみたい方は本公欠までお知らせ下さい。(写真や地図入りの楽しい本です)「都市に泉を」もあります。

三ヶ村泉ホテルの夕べ



木の系録が濃くなるにつれ
今年も多くの虫たちが出会えます。
陽射が残って涼しい夕べ。
夜はホタル。
ちょっと欲ばった観察会です。

6月10日(土) 4:30~8:00
長ソテ長スボコにて
(お問い合わせは 白形 25-3413まで)

今後の予定

- * 三ヶ村泉ホテルの夕べに有志参加予定 (連絡: 白形さんまで 25-3413)
 - * 6月例会
 - 時: 6月19日(月) 1:30~
 - 所: 町民会館3階 会議室
 - ・ 絵はがきをどうするか
 - ・ 産業課に要望書を提出したその後
 - ・ 愛媛の教育の現状
 - ・ その他会員各自が持ち込んだテーマ色々
- こぞってご参加下さい!

7月の例会は、おやすみします。またいつか阿歌古の山にでも入ってみませんか。

会員募集

くらしの学習会では、一緒に活動する仲間を募集しています。会費は、年2千円
購読のみ希望の人は、千円です。いつでも入会できます。

問い合わせ先: くらしの学習会
事務局 64-6956 (林)
絵はがき担当 64-0284 (松久)

編集後記

オウム事件では、日本の教育問題をにつづく感じさせられました。何故、高学歴の人たちがこの様な馬鹿なことを。常に批判精神を持ちつつ物事を吟味しながら歩んで行きたいと思います。これってくらしの学習会の精神ですよ。(T・H)